

第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞 受賞報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 達也, 岡野, 光夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/00031863

第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞 受賞報告

2017年11月17日、東京女子医科大学先端生命医科学研究所は、早稲田大学先端生命医科学センターとともに第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞を受賞しました。2017年12月13日、総理大臣官邸にて表彰式が行われ、東京女子医科大学先端生命医科学研究所清水達也所長と早稲田大学先端生命医科学センター柴田重信センター長が受賞式に参列し、西銘経済産業副大臣より賞状を授与されました。

本賞は、大学、公的研究機関、企業等における医療分野の研究開発に多大に貢献した個人または団体を表彰するため、今年新たに創設されました。今回、第1回目の表彰で大変栄誉ある受賞となりました。

受賞のポイントとして、「医療機器産業に貢献した人材を多数輩出するなど、長年にわたり人材

育成に貢献」したことが挙げられており、約50年間のバイオメディカル・カリキュラムでの継続的な人材育成が大きく評価されました。受賞できましたのは、医療分野におけるバイオメディカル・カリキュラム卒業生の皆様のご活躍によるものと存じます。

櫻井靖久先生がバイオメディカル・カリキュラムを大きく発展させて、岡野光夫先生が医工融合型研究・教育の拠点として東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設(TWIns)を開設しました。現在、清水達也先生およびその他教員にも薫陶が脈々と引き継がれております。これからもバイオメディカル・カリキュラムの活発な運営と発展にまい進する所存です。卒業生および会員の皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞 受賞

東京女子医科大学先端生命医科学研究所 所長・教授

清水 達也

Tatsuya SHIMIZU

この度、東京女子医科大学先端生命医科学研究所が日本医療研究開発大賞経済産業大臣賞を受賞致しましたことは研究所の50年の歴史にとって極めて喜ばしいことです。また同時に長年の当研究所における研究・教育活動を牽引してこられました歴代施設長である、桜井靖久先生、岡野光夫先生に心より感謝を申し上げたいと存じます。さらにバイオメディカルカリキュラム(BMC)における教育、TWInsの設立、当研究所における教育・研究に御尽力いただきました学内外の数多くの方々、そして何よりも医療産業界で活躍されるBMCの卒業生の方々にも深く御礼申し上げます。

今回の受賞は第1回ということで非常に名誉であるとともに、受賞理由として多分野融合型の人材育成ならびにその体制整備により日本の医薬・医療機器産業の発展に多大な貢献を果たしたことが挙げられており、極めてユニークで意義深いものとなりました。

私自身は1999年、ちょうど岡野先生が桜井先生の後任として、所長になられた年に本研究所で再生医療の研究を開始しました。医工連携、産学連携に対するお二人の先生方の強い意志を感じるとともにその重要性を体感して来ました。実際、他分野の研究者との共同研究、企業との共同研究無くしてはこれまでの成果は得られなかったことでしょう。今後も自身の経験を基に融合型の研究の推進、人材の育成に邁進していく所存です。

今回の受賞を2019年に開設50周年*を迎えます当研究所のさらなる発展に向けた期待と激励と受け止め、さらなる日本の医療の発展に向け研究所一同、力を合わせて一層の努力を致す所存でございます。また2000人を超えるBMC卒業生の方々と未来医学研究会を通じた交流の活性化による新たな医療産業の創出も検討していきたいと考えておりますので、引き続き変わらぬご交誼を賜りますようお願い申し上げます。

*：2019年7月6日(土) 記念講演&祝賀会開催予定

第1回日本医療研究開発大賞 経済産業大臣賞の受賞について

一般社団法人未来医学研究会 会長
東京女子医科大学 名誉教授・特任教授
ユタ大学 細胞シート再生医療センター長・併任教授

岡野 光夫
Teruo OKANO

近年の医学、生命科学は免疫学や遺伝子学に代表されるように次々に既存の医学を進化させて来ている。同時に理工学のテクノロジーはAI、ロボット、ナノ材料など我々の社会を大きく変革している。東京女子医大の先端医療の取り組みは1969年に三浦茂教授により医用技術研究所から始まっている。これを1974年に桜井靖久教授が引き継ぎ、医工連携の教育・研究の体系化を精力的に行った。医学部卒業生以外の医薬・医療機器開発の研究従事者が医学の基礎を学べる1年のバイオメディカルコースの今日の基盤が出来上がっている。桜井教授の医学に最先端のテクノロジーを導入する取り組みは早大の学生時代から研究を共にした岡野光夫に引き継がれた。岡野は徹底して医工連携から医工融合に向けた体制作り挑戦し、2001年に先端生命医科学専攻を医学研究科の中に開設した。医学部卒業生と理工学修士修了者が入学でき、医工融合の新しい仕組みを作った。さらに、2008年に早大との共同研究教育施設TWInsを創設し、一棟の建物の中に両大学の学生と教員が一体となって活動できる斬新な両大学に壁のない施設は医工融合の新しい形として世界の注目の的となった。2010年からは、レギュラ

トリーサイエンスの両大学の共同大学院が開始された。

以上の半世紀に渡る東京女子医大の先端医療の挑戦の成果は、多くの医学部教授と工学部教授のみならず、多くの産業界のリーダーを輩出し我が国の先端医療の急速な進展に寄与している点には他に例を見ない。世界初の細胞シート再生医療の創出により、再生医療の臨床研究・治験を成功させ世界的な先導的な研究開発拠点となった。さらに今日、清水達也教授がリーダーとなって新しいタイプの医師・研究者達と一丸となり次の発展を目指している。その他、村垣善浩教授が中心となりインテリジェント手術室とその発展など医工融合の成果を上げている。プラットフォーム技術を国内外の医療機関と連携・共同し、臨床現場での利用により、大きな価値を作っていくオープンイノベーションを世界に先駆けて実現している点は国内外から高く評価されている。

このような世界でもユニークな先端医療拠点の益々の発展とその医療革新の達成が期待される。今回の受賞は道なきところに道を作ってきた東京女子医科大学と早稲田大学の挑戦者とそれを支えた人達の成果であることを肝に銘じたい。